

# 劣化抑制性能試験

## コンクリートの促進中性化試験

JIS A 1153 コンクリートの促進中性化試験方法 により実施

### 1. 試料

角柱供試体を作製し、打設後 4 週間の水中養生、さらに 20・65%RH の標準状態にて 4 週間静置養生したものを試料とした。角柱供試体 4 面のうち、対面の 2 側面にあらかじめエポキシ系樹脂にてシールを行った。

養生終了後の角柱供試体の 1 面は無塗布の状態とし、もう 1 面はアイゾール EX を塗布し、20・65%RH の標準状態にて 7 日間静置養生した。

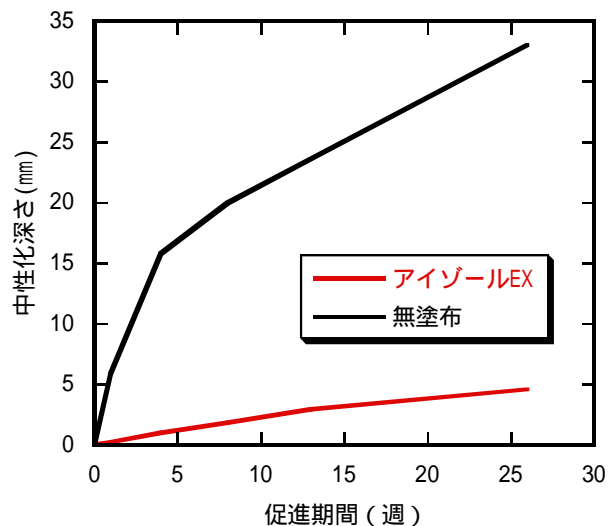
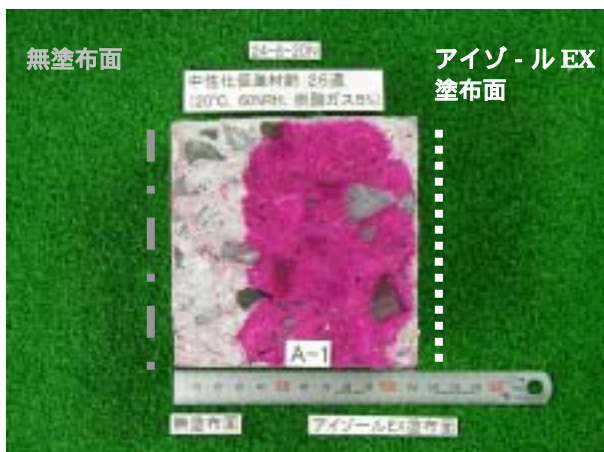
### 2. 試験方法

中性化促進試験機内に供試体を設置し、CO<sub>2</sub> 濃度 5% で材齢 26 週まで連続噴霧を行った（屋外材令約 77.5 年に相当）。中性化深さの測定は、JIS A 1152 コンクリートの中性化深さの測定方法 により実施した。フェノールフタレイン溶液を噴霧した後、中性化領域である白色部分を一辺当り 5 箇所計測し平均化した。

### 3. 試験結果

アイゾール EX 塗布面の中性化深さは、無塗布面に比べ約 1/8 であった。（材齢 26 週中性化深さは、無塗布の場合 33.0mm、アイゾール EX 塗布の場合 4.6mm）

中性化促進試験後の角柱供試体



中性化深さの進行状況（白色部分は中性化が進行している領域・上下面はエポキシ系樹脂塗料にてシール処理済）